

蛇で品川盛り上げ

宮司と商店街でアピール

白蛇をまつる品川区二葉の神社の宮司が、商店街と協力して、地元を「蛇の街」としてアピールしている。神社と商店街を含む一帯がかつて、「蛇窪村」だったことにちなんだ取り組みで、蛇のキャラクターを作成。イラスト付きの商店街マップも作り、神社や店などで配布している。

蛇による街おこしを進めるの

は、上神明天祖神社の齊藤泰之さん(41)。干支が「巳」だった昨年、神社の敷地内にある白蛇のほこらが「御利益スポット」としてテレビや雑誌などで紹介され、正月だけで例年の10倍となる10万人以上の参拝客が訪れた。その後も観光バスで団体客が来るほどの人気ぶりで、齊藤さんは「蛇の珍しさや、財運向上のイメージは街おこしに使えるのでは」と思い立った。

神社がある二葉や豊町のほか、戸越、西大井の一部はもと

もと、蛇窪村と呼ばれていた。村名の由来は「昔、この地域に蛇が多く生息していた」「神社が鎌倉時代から白蛇をまつっていた」など諸説ある。だが、蛇窪の地名は1932年、一帯を

含む荏原郡が東京市に編入された際に消滅した。「蛇」という地名は、印象が良くないと、議

事になった。

「蛇の街としてアピールしたい」と話す齊藤さんと、キャラクター「くぼっち」(品川区の上神明天祖神社で)

のイメージは街おこしに使えるのでは」と思い立った。

神社がある二葉や豊町のほか、戸越、西大井の一部はもと

もと、蛇窪村と呼ばれていた。村名の由来は「昔、この地域に蛇が多く生息していた」「神社が鎌倉時代から白蛇をまつっていた」など諸説ある。だが、蛇窪の地名は1932年、一帯を

含む荏原郡が東京市に編入された際に消滅した。「蛇」という地名は、印象が良くないと、議

事になった。

「蛇の街としてアピールしたい」と話す齊藤さんと、キャラクター「くぼっち」(品川区の上神明天祖神社で)

のイメージは街おこしに使えるのでは」と思い立った。

神社がある二葉や豊町のほか、戸越、西大井の一部はもと

もと、蛇窪村と呼ばれていた。村名の由来は「昔、この地域に蛇が多く生息していた」「神社が鎌倉時代から白蛇をまつっていた」など諸説ある。だが、蛇窪の地名は1932年、一帯を

含む荏原郡が東京市に編入された際に消滅した。「蛇」という地名は、印象が良くないと、議

事になった。

「蛇の街としてアピールしたい」と話す齊藤さんと、キャラクター「くぼっち」(品川区の上神明天祖神社で)

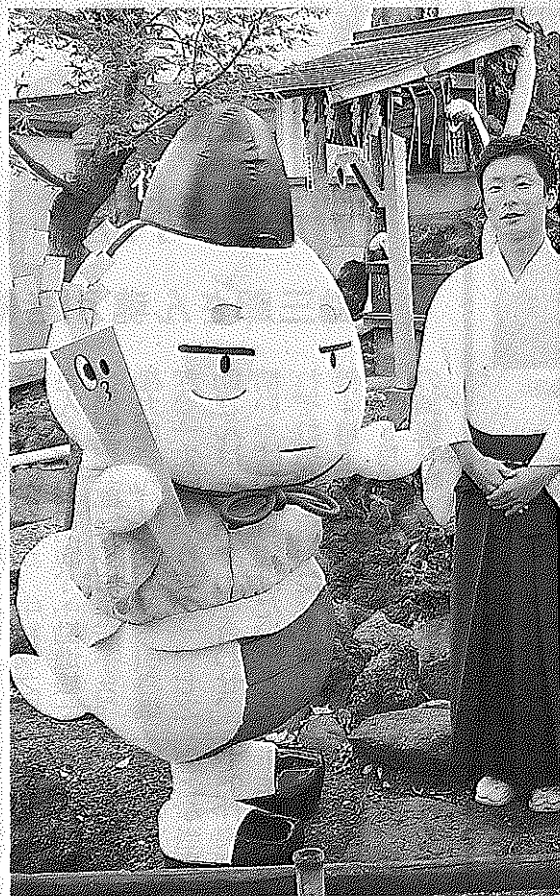
のイメージは街おこしに使えるのでは」と思い立った。

神社がある二葉や豊町のほか、戸越、西大井の一部はもと

もと、蛇窪村と呼ばれていた。村名の由来は「昔、この地域に蛇が多く生息していた」「神社が鎌倉時代から白蛇をまつっていた」など諸説ある。だが、蛇窪の地名は1932年、一帯を

含む荏原郡が東京市に編入された際に消滅した。「蛇」という地名は、印象が良くないと、議

事になった。



「蛇の街としてアピールしたい」と話す齊藤さんと、キャラクター「くぼっち」(品川区の上神明天祖神社で)

キャラクター作成／マップやご当地グルメも

員らに嫌われたからだという。齊藤さんは手始めに、絵が得意な姪に頼んで、蛇のキャラクターを作成。蛇窪にちなんで「くぼっち」と名付け、今年9月には着ぐるみも制作した。着ぐるみの前で「カシコメ、カシコメ」と呪文を唱え、おはらいをしてくれる。そんな姿が受け、くぼっちは地元の小学校の運動会や商店街のイベントなどに呼ばれるようになった。

今月には、取り組みに賛同してくれた地元の商店1・2・3店舗の場所や連絡先などを紹介する「スネークタウンマップ」が完成。マップには、白蛇さまが祀られている街で、買い物や食事または仕事を依頼する事で運氣アップを」と記し、御利益をアピールしている。さらに、商店街の協力を得て、すいとんを細長く作り、白蛇に見立てたご当地グルメ「白蛇すいとんスープカレー」を開発した。正月三が日には、神社の境内で販売する予定だ。

齊藤さんは、神社の蛇が注目される前から、地元の活性化について思いを巡らしていたという。「神社にできる地域振興策といえば、年に一度のお祭りぐらいしかなかった。試行錯誤している段階だが、次の巳年となる2025年までにはもっと盛り上げ、地域全体を蛇の街として定着させたい」と話している。